

JIS

自動車及びタイヤの車外騒音測定のための 試験用路面

JIS D 8301 : 2020
(ISO 10844 : 2014)
(JSAE)

令和 2 年 3 月 23 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒井 信介	横浜国立大学
(委員)	伊藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	宇治 公隆	首都大学東京 (公益社団法人土木学会)
	大石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	奥田 慶一郎	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	奥野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	鎌田 実	東京大学
	木村 一弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	木村 たま代	主婦連合会
	佐伯 誠治	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎名 武夫	千葉大学
	高増 潔	東京大学
	千葉 光一	関西学院大学
	寺澤 富雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	奈良 広一	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	西江 勇二	一般財団法人研友社
	福田 泰和	一般財団法人日本規格協会
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	楨 徹雄	東京都市大学
	棟近 雅彦	早稲田大学
	村垣 善浩	東京女子医科大学
	山田 陽滋	名古屋大学
	山内 正剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	和辻 健二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 5.11.1 改正：令和 2.3.23

官 報 掲 載 日：令和 2.3.23

原 案 作 成 者：公益社団法人自動車技術会

(〒102-0076 東京都千代田区五番町 10-2 五番町センタービル TEL 03-3262-8211)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	2
3 用語及び定義	2
4 試験路面の要求事項	4
4.1 寸法及び形状	4
4.2 伝ば領域の路面特性	7
4.3 走行路の路面特性	7
4.4 適合性試験	8
4.5 路面特性の均一性	10
4.6 経時変化に対する安定性及び維持管理	10
4.7 試験路面の安定化	10
5 測定方法及びデータ処理	10
5.1 凹凸量の測定方法	10
5.2 テクスチャの測定方法	10
5.3 吸音率の測定方法	11
6 適合報告書	11
7 各国での実施例	12
8 1993年版からの主な改良点	12
附属書 A (参考) 路面のテクスチャレベルの変化から予測される 通過騒音のレベル差の計算 (END_T)	13
附属書 B (参考) 試験用路面の音響特性の経時変化に対する維持管理及び安定性	18
附属書 C (参考) 試験路面の施工実施例	19
附属書 D (参考) JIS D 8301:1993 からの改正内容	24
附属書 E (参考) 参考文献	25
附属書 JA (参考) 報告書の書式例	27
附属書 JB (参考) 粒度曲線の範囲	46
解 説	47

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、公益社団法人自動車技術会 (JSAE) から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS D 8301:2013** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

自動車及びタイヤの車外騒音測定のための 試験用路面

Acoustics—Specification of test tracks for measuring noise emitted by road vehicles and their tyres

序文

この規格は、2014年に第3版として発行された **ISO 10844** を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にない事項である。また、**附属書 JA** 及び**附属書 JB** は対応国際規格にはない事項である。

一般に、車両の騒音に影響する路面パラメータは、テクスチャ特性及び吸音特性である。加えて、表層の機械インピーダンス特性及び滑り抵抗特性も騒音レベルの測定に影響を与え得る。したがって、異なる試験場で行われる車両騒音及びタイヤ騒音の測定の変動を最小限にするためには、関連する路面特性を規定し、試験用路面の素材、設計及び構造の特性を規定する必要がある。

この規格の主たる目的は、測定の再現性を高める試験用路面の改正仕様を提供することである。

試験には異なる試験場間における高度な再現性が求められ、路面設計はタイヤ・路面の騒音の試験場間におけるばらつきを最小限にするだけでなく、使用する路面が騒音の伝ばに影響を与えることのないようにすることが重要である。この騒音伝ばの考慮は、空隙の多い路面、並びに動力装置及び他の音源からの騒音を吸収する特性をもつ路面の使用をしてはならない。

この規格は、**JIS D 8301:1993** に対して、より限定的な路面仕様及び試験用路面の施工手順、並びに保守に関する推奨を含む。路面の基本的特性は変更していない。

規格の次期定期見直し前の分析のために、 END_T を計測し **ISO/TC43/SC1** にデータを伝えることを、この規格の使用者に奨励する。

さらに、路面特性の定期検査の際には、この規格で規定する非破壊試験法を用いるのがよい。

この規格は、幾つかの規格（例えば、**JIS D 1024** 規格群、**ISO 13325**）で引用されている。

注 END_T は、基準路面に対するテクスチャの変化に起因する騒音のオーバーオールレベルの変動を予測する一つの評価値である。 END_T の計算は、**附属書 A** 参照。

1 適用範囲

この規格は、車両及びタイヤ・路面の騒音測定を目的とする試験用路面の重要な特性について規定する。

この規格に示す路面の考え方は、次のとおりである。

- 車両の騒音試験を含む広範囲の走行条件で、一貫した車両及びタイヤ・路面の騒音を発生させる。
- 試験場間のばらつきを最小限にする。
- 車両の騒音源の吸音性を小さくする。